



**•Tackle Guide**  
常に仕掛けを引っ張っている状態の横流し釣りの場合は、潮が速いときはハリスを1メートルくらい長めにすると、エサをくわえたヒラメに与える違和感を軽減する効果がある。

平等にアタリを得られるように船を流すスタイルだ。まずは左舷が舷に風を受ける向きでの流しとなる。スタートからおよそ15分後、仕掛けが船下に切れ込む潮先側の右舷4番・斉藤さんにアタリ到来。0.8キロ級がタモ取りされる。

船中2枚目を手にしたのは右舷3番の上田さん。1キロあるかなあ? と思いつながらデジタルスケールで計量すると1.3キロを表示。冬場に向けてどんどん肉厚になっている魚体は見た目以上の重量だ。潮先となる右舷有利の流しだが、左舷でもアタリ到来。



▲外房大原のヒラメは来年5月までのロングラン

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!  
これから楽しみ!

# 釣りどきレポート

Best Season Report

秋になると油断しがちな日焼け対策。船上は海面の照り返しもあるので一年を通して紫外線は強めです。寒い時期も日焼け止めで肌をケアしましょう。

▼紅一点の矢嶋遥さんが1キロオーバーを3枚そろえて大活躍



海悪と速潮の影響か、前日までの釣況から一変した一日となつてしまつたが、船長の釣らせる意気込みに押され、終わってみれば平均2〜3枚、トップ5枚(リリース含む)と上々の釣果。当地は例年11

大ドモの古瀬さんが1キロ級をキヤッチ。おおよそ1時間の大流しで上がったヒラメは3枚。流し変えた後もポツリ、ポツリの拾い釣りで、この釣況に浮かない表情の大船長は、「いつもなら朝の竿入れでバタバタくるんだけど……今日は様子がおかしいですよ」とぼやく。

**いい所に入ったぞ!**  
アタリが遠いとなると、ついつい集中力も下がりがちになってくるものだが、「ここからカケ上がりです。14メートル、13メートル、根掛かりに気を付けて」  
「10メートルに上がったぞ、いい所に入ったから油断するな!」  
熱のこもった激ともいえる大船長、若船長のダブルアナウンスにだれ一人として置き

竿にする人はいない。「潮は速いけど、底に着けちゃダメだよ」  
「道糸はのぼしても20メートル。それ以上のぼしても釣れないから、巻き上げて落とし直したほうがいいよ」  
アタリが遠いときは船長にコツを聞くことが一番だが、アタリがきてもおかしくないぞ!」と大船長がアナウンスした直後、潮先側の右舷でトモの石井さん、2番の石川さん、ミヨシ2番の矢嶋遥さんの3名に同時ヒット。そして仕掛けが払い出す潮

裏側の左舷でも、少し遅れたタイミングでミヨシ1番の吉田さんと3番の寺本さんにヒット。  
タモを持って走り回る若船長。バタバタとはまさにこのことだ。キヤッチされたヒラメはどれもサイズがよく、中でも石井さんが釣り上げたヒラメは1.5キロ近くありそうだ。  
後半に調子を上げたのは矢嶋さん。立て続けに2枚を釣り上げ合計3枚ゲット、羨望のまなざしを浴びる。  
私も撮影の合間に竿を出させていただき、船長のアドバイスどおりにタナを取ったら即ヒット。0.8キロ級をキヤッチした。

月ごろよりイワシの回遊が始まり、それを追って大型のヒラメが入ってくる。  
イワシの反応次第では水深5〜10メートルの浅場も狙い、大ヒラメとの豪快なやりとりが楽しめる。  
寒さが増すにつれてますます熱くなるヒラメ釣り。大いに期待したい。



▶取り込みは若船長におまかせ

今回事話になったのは春栄丸。数多い大原港の遊漁船の中でもヒラメ釣りにおいて定評の高い船宿だ。  
当日の釣り人は総勢12名。右舷6名、左舷6名の配席となり、私は左舷ミヨシ2番に入れていただく。  
準備の合間に白川永一若船長に釣況を伺うと、「1キロ前後主体で、連日トップの人は6〜8枚と順調に釣れていますよ!」と明るいコメントが返ってきた。  
4時40分に出船。当日は風が強い予報で、北東風と沖か

「潮が速いからオモリは100号にしてください」  
「まだエサは付けないでよ。今付いたらイワシが弱っちゃうからね。合図が出たら手早く付けて投入してください」  
「時間になったので始めてください。水深は15メートル」  
威勢のいい清一大船長のアナウンスでスタートとなった。  
大原のヒラメ釣りといえば横流しが定番。右舷、左舷を交互に入れ替え、

「潮が速いからオモリは100号にしてください」  
「まだエサは付けないでよ。今付いたらイワシが弱っちゃうからね。合図が出たら手早く付けて投入してください」  
「時間になったので始めてください。水深は15メートル」  
威勢のいい清一大船長のアナウンスでスタートとなった。  
大原のヒラメ釣りといえば横流しが定番。右舷、左舷を交互に入れ替え、

**知得! ヒラメ釣りのポイント**

ヒラメの釣果を左右する大事なポイントの一つがエサ付けた。イワシをオケから取り出して付ける……なんていうのはイワシの弱りを早めるだけ。イワシを付けるときは、ウロコがはがれないようにオケの中でそっと包むように手に取り、海水に浸した状態でハリを手早く打ち、海へ放つ。  
海底に送り込む際も、イワシに負荷がかからないようリールのスプールをサミングして下ろす速度を減速する。ウロコがはがれておらず、元気のよいイワシを泳がせることができれば釣果は倍増するはずだ。

▲オケの中で泳ぎ回るイワシをすくうザルがあると便利

●しいな よしのり/当日隣席した吉田さん。船上で色んな会話をしているうちに、奥様が私の中学生時代の同級生であることが判明。こんな偶然ってある!?

## 親子船長が熱血アドバイス 好調!! 外房大原のヒラメ

◎外房大原港発↓太東沖  
本誌ADC(東京)権名義徳 Yoshinori Shimizu